

暮らし・福祉・教育優先の市政をめざして
みんなが



たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 黒田みち

市会議員控え室 TEL 740-1111 (内線4020)

直通FAX 759-1811

黒田みち事務所 TEL 795-4760

たんぽぽだよりブログ

http://kurodamich.exblog.jp



「中学校給食」アンケート

保護者7割超・自校方式望む

弁当持参できない中学生も

川西市中学校給食検討会議の第2回会議が11月14日に開催、私(黒田)は給食実現を願って傍聴に入りました。
会議では、9月に実施された「中学校給食のあり方に関するアンケート」結果の報告と質疑、討論がおこなわれました。
(詳細は11月14・15日たんぽぽだよりブログに掲載中)

アンケートでは、小・中学「自校方式」を求めているのが2位に、「給食の準備等の必要がないので、時間に余裕が得られる」を上げました。「お弁当」を求めています。

食のバランスとれる

「給食の良いところ」は保護者、子どもとも第1位が「様々な食材をバランスよく食べられる」、第2位は「夏は食べ物の傷みの心配がなく冬は温かい食事がとれる」、第3位は「保護者の負担が減る」をあげています。

「お弁当」も「準備が大変」?!

現在、川西市の小学校給食は、とても豊かな「自校方式・米飯給食」で喜ばれています。が、休憩45分間内に「準備、食事、片付け」をしなければならぬことも達がお弁当を選ぶことも理解できます。このほか、「アレルギーへの対応」などが上がっています。

食育・食農のまちづくり

討論では、「食育」の必要性や豊かな給食を求める声を中心に、さまざまな「方式」についての意見が出されました。今回は、アンケート結果の詳細な分析と各中学校での実態と課題が検討されます。

秘密保護法は廃案に!



緊急!

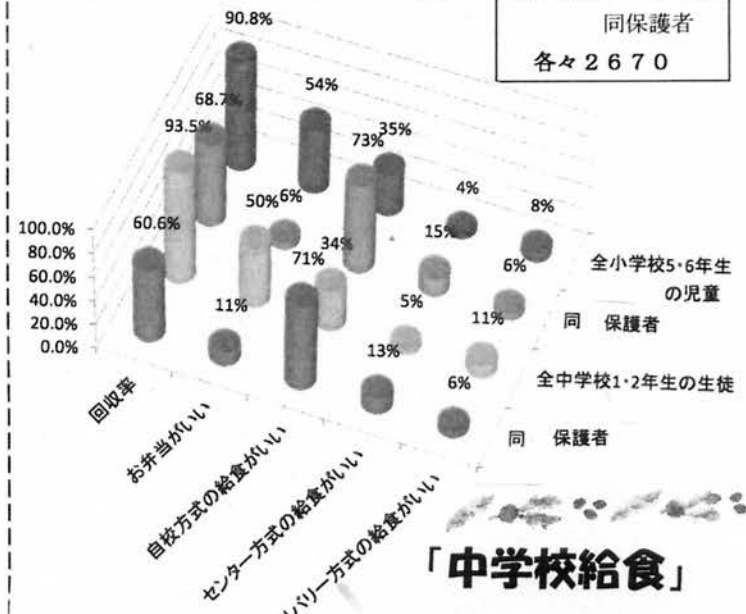
国民にも秘密が伝えられない「特定秘密の保護に関する法律案」の制定を急ぐ自民党・公明党などの暴走に歯止めをかける取り組みが急務です。

日本共産党は、「戦前」に戻そうとする本法案と「戦争できる国作り」のための「国家安全保障会議設置法案」に反対、署名・宣伝活動をしています。

私は、子どもと地域の「食育・食農」の観点から、川西市の農業後継者づくりや農地継承を含む、まちづくりの一貫として地産地消の給食が重要と考えています。ぜひ、ごいっしょに豊かな中学校給食を実現させましょう。

アンケート配布数

全小学校5・6年生 同保護者 各々3106
全中学校1・2年生 同保護者 各々2670



「中学校給食」アンケート結果

「なくせ原発、急げ生活再建」に連帯

「なくせ原発、急げ生活再建! 福島に連帯する報告集会」が11月9日兵庫県民会館で開かれました。2日に7000人が集った「ふくしま大集会」に呼応したもので阿部福島県議員が「福島の現状と課題」を報告しました。

原発事故の強制避難で津波被災者を救助できなかったことや避難先を転々とし、「足手まといになるから」と自殺された高齢者など、それぞれの無念さや憤りが伝わってきました。帰宅可能区域になっても家が荒れて戻れない、除染が進まない、避難地域の一方的な線引きで町が分断されている、子どもが外で遊べないため体力が落ちたり、甲状腺異常などが心配なことなどが話され、「収束宣言の撤回」「汚染水対策」、福島県下10基の原発廃炉に向けた取り組みへの決意が語られました。

私(黒田)もボランティア参加者として、「仮設住宅の実態やそこで聴いてきたことを伝え、問題・課題解決に向けて連帯していきましょう。」と発言しました。



国民の目・耳・口ふさぐ

暗黒日本お断り

突然逮捕 容疑は不明

パソコンやスマートフォン(多機能携帯電話)で、ある情報を調べ、ブログ(簡易ホームページ)などに書き込んだら、ある日突然、事情聴取された。

原発情報も「特定秘密」

原発の調査にでかけ、施設がのぞめる小高い丘から写真を撮り、ツイッターでつぶやいたら処罰された。

「情報公開」の宣伝でも

ある日、霞が関の官庁街で「情報を公開しろ」と集会を開き、マイクで訴えていたら、「秘密保護法違反(扇動)」だと警察に逮捕された。

家族・友人も身元調査

自衛隊に装備品を納入する会社に勤めるFさん。本人だけでなく家族のプライバシーまで調べられていた。

許すな！秘密保護法案

市民を監視・統制



イラスト：井筒孝

楽しい会話も「秘密漏えい」?

「秘密保護法案」——徹底審議を通じて廃案に追い込もう

日本共産党は、この希代の悪法は、国会に提出すること自体、断固反対だと言っている。膨大な情報のうち、政府も、審議を強行する以上、国民の目で徹底的に問題点を明らかにすることを、強く求めます。徹底審議を通じて廃案に追い込もうでは、ないかということも、希代の弾圧法であります。

「特定秘密」の範囲は際限なく広がっていく

恐ろしいところがたくさんありますが、第一に、この「特定秘密」なるものがどこまで広がるか、無制限はだれか。「行政機関の長」

何が秘密かも秘密——こんな恐ろしい暗黒社会は許せない

第二に、この法律という題があります。「特定秘密」のは、国民の側からいって指定した場合、何を「特定秘密」に指定したか、これも秘密になっていくという問題は明らかではありません。

逮捕されたら——何で裁かれているかもわからない 暗黒裁判か

第三に、「秘密保護法」に「違反」して逮捕された場合、どうなるでしょう。裁判の過程も暗黒裁判になってしまいます。裁判の過程でも、特定国民多数の声で、希代の悪法を包囲し、かならず廃案に追い込もう

みなさん、たたかいはこれからです。「秘密保護法案」の恐るべき正体が明らかになるにつれて、国民の過半数が反対の声をあげているではありませんか。日本弁護士連合会、日本ペンクラブ、憲法や刑事法やメディア法の専門の研究者の方々、みんなそろって党派を超えて反対の声を上げているのでは

とされています。防衛大臣、外務大臣、警察庁長官、こういう人たちが、「これは特定秘密だ」と決めたら、それは無制限に広がっていきます。

国民から見ても、何が秘密かわからない。何が秘密かも秘密——こんな恐ろしい暗黒社会は絶対に許すわけにはありません。(その声、拍手)

い。弁護士はどうでしょう。弁護士にも「特定秘密」は開示されません。弁護士はどう弁護しているかわからない。ひとたび「被告人」とされてしまったら、自らを防護する手段が存在していないのです。

制し、世論を誘導し、好き勝手に自分の意のままに動かせる国に作り替えようというのが、今度の一連のたくらみであります。

日本国憲法の平和主義に反し、憲法の国民主権に反し、憲法の基本的人権に反するこの悪法を廃案に追い込むために、私たちは最後までがんばりぬきます。「秘密保護法」反対の一点で、すべての人々が力をあわせてたたかうことを心からよびかけて、私の連帯のあいさついたします。

日本共産党の志位和夫委員長が7日、「秘密保護法案」の国会審議入りには抗議して行われた衆院第2議員会館前での緊急行動で行った連帯あいさつは以下の通りです。(抜粋)